

■決算ハイライト

連結売上高は前年同期比 **19.0%減**となる **604 億円**、
営業損益面では **78 億円**の営業損失を計上いたしました。
なお、会計方針変更前の数値では、**85 億円**の営業損失となり、
前年同期との比較では、営業損失は縮小しております。
今期は全体的に下半期に主力製品・サービスを供給する計画であり、
概ね計画どおりの推移となっております。

セグメント別で見ますと、

パチスロ遊技機事業におきましては、当第1四半期では新機種の販売を計画しておらず、
前期発売した機種の販売が中心となったため、前年同期比で販売台数が減少した一方、
パチンコ遊技機事業におきましては、一部製品の発売延期があったものの、
複数の新機種投入により販売台数は前年同期実績を上回りました。

アミューズメント機器事業におきましては、当第1四半期では新製品の販売を計画しておらず、
カードなどアミューズメント機器の消耗品や前期発売した機器を引続き販売いたしました。

アミューズメント施設事業におきましては、依然既存店舗売上高が前年同期実績を下回る水準で
推移しております。

コンシューマ事業におきましては、主力ソフトの販売があった前年同期と比較すると販売本数が
減少いたしました。

■連結損益計算書(要約)

2010年3月期の第1四半期実績は

売上高：**604 億円**(前年同期比 19.0%減)

営業損失：**78 億円** [会計方針変更前：**85 億円**の営業損失](前年同期は 102 億円の営業損失)

経常損失：**80 億円** [会計方針変更前：**87 億円**の経常損失](前年同期は 98 億円の経常損失)

四半期純損失：**102 億円** [会計方針変更前：**109 億円**の純損失](前年同期は 105 億円の純損失)

となりました。

この実績は計画に沿った推移となっております。

中間期ならびに通期の業績予想に修正はございません。

■各種費用等の実績

設備投資額および減価償却費については、アミューズメント施設店舗の減少を受けて前年同期比で大幅に減少しております。

研究開発費およびコンテンツ制作費は、主にアミューズメント機器事業およびコンシューマ事業における削減によって、会計方針変更前の数値と比較しても、前年同期比で減少しております。また、広告宣伝費につきましては、主にコンシューマ事業における減少によって、前年同期比で減少いたしました。

■連結貸借対照表(要約)

研究開発費に係わる会計方針変更に伴い、アミューズメント機器事業とコンシューマ事業におけるコンテンツ制作費がたな卸し資産として約7億円計上されています。

自己資本比率は、前期末の52.4%から第1四半期末には53.9%となり、引き続き健全な水準を堅持しております。

次に、セグメント別の実績についてご説明いたします。

■遊技機事業

売上高:196億円(前年同期比63.3%増)

営業損失:10億円(前年同期は43億円の営業損失)

売上高は主にパチンコの販売台数の増加を受けて、前年同期比で63.3%増の196億円、営業損益ベースでは前年同期43億円の営業損失に対し10億円の営業損失計上となりました。売上は、一部パチンコ遊技機の発表延期を受けて計画を下回ったものの、販売価格の見直しなどにより、利益面では逆に計画を上回る進捗となっております。

パチスロ遊技機販売は、第1四半期において新機種の販売は計画しておりませんでした。前期末に販売したサミーブランドの『パチスロ「快盗天使ツインエンジェル 2」』が設置後、高稼働を継続し、当第1四半期において4千台弱販売いたしました。その結果、当第1四半期でのパチスロ販売台数は5,111台にとどまり、前年同期比で9,937台減少いたしました。

パチンコ遊技機販売では、タイヨーエレックブランドの『CR機動新撰組 萌えよ剣 疾風怒濤編』が約3万台、サミーブランドの『ぱちんこCRハクション大魔王3 アクビ娘』が約1万5千台となっております。また、当初第1四半期に販売を予定していた銀座へのユニット供給タイトル『CR昭和伝説 三波春夫』は、販売時期を第2四半期に見直しました。その結果、当第1四半期でのパチンコ販売台数は53,748台となり、前年同期比で34,044台増加いたしました。

中間期への見通しとしましては、パチスロにおいては、サミーブランドの『パチスロうる星やつら2』の販売が、計画を上回る形で堅調に推移しております。また、先般保通協より適合を取得いたしました、サミーブランドの『パチスロ交響詩篇エウレカセブン』を9月末に出荷する計画です。

パチンコにつきましては、サミーブランドの『CRガメラ THE BATTLE PACHINKO』の販売が計画を上回り、既に完売となりました。また、先般発表させていただいた今期の子カタイトルの一つである、サミーブランドの『ぱちんこ CR 宮廷女官チャングムの誓い』を9月上旬に出荷する計画です。

■アミューズメント機器事業

売上高:78億円(前年同期比43.1%減)

営業損失:10億円 [会計方針変更前:12億円の営業損失](前年同期は7億円の営業利益)

売上高は、前年同期比で**43.1%減の78億円**、

営業損益面では、**10億円**の営業損失となりました。

なお、会計方針変更前の数値では、**12億円**の営業損失となりました。

当第1四半期では新製品の販売を計画しておらず、カード等アミューズメント機器の消耗品や、前期発売した機器を引続き販売し、計画どおりの進捗となりました。

当セグメントの研究開発費およびコンテンツ制作費は、会計方針変更前の数値と比較すると、前年同期比で**2億円**減少しております。尚、研究開発費に係わる会計方針変更に伴い、当第1四半期にコンテンツ制作費がたな卸し資産として**約2億円**計上されています。

今後は、幅広いユーザー獲得を目指し、高付加価値製品からファミリー向けの製品まで、多様なユーザーニーズに応え、同時にオペレーターの投資効率向上と、機器メーカーである当社の長期安定収益の確保を実現する製品・ビジネスモデルを提供いたします。

今期提供する新たな製品・ビジネスモデルの例として、9月に出荷を予定している『ボーダーブレイク』では、汎用筐体を活用すると共に、レベニューシェアモデルにて供給し、通常の間課金に加えて新たにアイテム課金を導入いたします。また、新基板の活用により原価低減を図ってまいります。

■アミューズメント施設事業

売上高:141億円(前年同期比19.0%減)

営業損失:1億円(前年同期は15億円の営業損失)

売上高は店舗数減少に伴い前年同期比で**19.0%減の141億円**となったものの、

設備投資額・減価償却費の減少や前期に実施した希望退職募集による営業費用の削減効果などによって、営業損益ベースでは前年同期**15億円**の営業損失に対し**1億円**の営業損失となり、損失が縮小いたしました。

既存店収益の状況は昨対で4月は**95.6%**、5月は**98.8%**、6月は**93.0%**となり、

計画を若干上回るトレンドではありますが、未だ昨年実績を下回る水準で推移しております。

また、収益性・将来性の低い店舗の閉店もしくは売却を進めており、当第1四半期における閉店店舗数は**25店舗**、当第1四半期末店舗数は**298店舗**となっております。

中間期への見通しとしては、コストを削減すると同時に、既存店舗において一部実績が上がりつつあるクレーンゲームやメダルゲーム等の運営力をさらに引き上げ、集客を高めてまいります。また、引続き収益性・将来性の低い店舗の閉店もしくは売却を実施してまいります。

また、セガは『甲虫王者ムシキング』や『オシャレ魔女 ラブ and ベリー』で掘り起こしたキッズマーケットの再度活性化を図るべく、異業種との協業を図りながら、今期は新たにキッズゲームを、第1四半期に投入した1タイトルを含め合計9タイトル投入していきます。ただし、レンタル型ビジネスのため、収益貢献は来期以降となります。

■コンシューマ事業

売上高: **180 億円**(前年同期比 41.0%減)

営業損失: **45 億円** [会計方針変更前: **50 億円**の営業損失](前年同期は 41 億円の営業損失)

売上高が前年同期比 **41.0%減**の **180 億円**、

営業損益面では、**45 億円**の営業損失となりました。

なお、会計方針変更前の数値では、**50 億円**の営業損失となり、主力タイトルの販売があった前年同期との比較では、営業損失の拡大となりました。

当第1四半期においては、海外でのリピートタイトルの販売が伸び悩んだものの、海外市場向けに『Virtua Tennis 2009』、国内市場向けに『プロ野球チームをつくろう! 2』、『初音ミク -Project DIVA-』などを発売し、概ね計画通りの進捗となっております。

セガのコンシューマ事業部門では、組織の改革を行い、国内事業部と海外事業部、ならびに開発本部を同一の本部下に統合いたしました。これにより製販一体による強固な事業体制の構築と、日・米・欧地域間連携の強化を図っております。

当セグメントの研究開発費およびコンテンツ制作費は、会計方針変更前の数値で比較すると、前年同期比で **36 億円**減少しております。尚、研究開発費に係わる会計方針変更に伴い、当第1四半期にコンテンツ制作費がたな卸し資産として**約 5 億円**計上されています。

中間期の見通しといたしましては、海外市場向けに『The Conduit』を発売し、国内市場向けには『ぷよぷよ 7』を発売します。

グローバルマーケットに向けた『マリオ&ソニック AT バンクーバーオリンピック™』や『BAYONETTA』等、今期主力タイトルにつきましては下半期を中心に投入する計画です。